

弘前大学医学部附属病院で診療を受けられた皆様へ

当院では下記の臨床研究に用いるため、患者さんの試料・情報を利用させていただいておりますので、お知らせいたします。

臨床研究名称： 当科で subannular tube 挿入術を施行した症例の検討

研究の目的

鼓膜の接着（アテレクターシス）や癒着性中耳炎に対する治療の一つとして鼓膜チューブ挿入術が考えられます。しかしその一方で、鼓膜チューブ挿入の合併症として、鼓膜穿孔の残存、鼓膜の萎縮・陥凹などが生じることがあります。また、鼓室形成術も考慮されますが、再癒着の可能性があることや小児例では侵襲が大きいことも懸念されます。このような場合の対策として、当科においては経外耳道的に鼓室換気チューブ挿入する subannular tube 挿入術（経外耳道的鼓室換気チューブ挿入術：SAT）を行ってきました。本研究は、これまでに当科で subannular tube 挿入術（経外耳道的鼓室換気チューブ挿入術）を行った患者さんについて、その経過を追うことで本治療の有用性を検討することを目的とします。対象となる方のカルテを基に調査し、subannular tube（経外耳道的鼓室換気チューブ）の残存期間や脱落后の経過などを検討します。

研究実施期間： 実施許可日 ～ 2029 年 3 月 31 日

対象となる方： 2012 年 4 月 1 日から 2025 年 3 月 31 日までの期間に耳鼻咽喉科頭頸部外科で subannular tube 挿入術（経外耳道的鼓室換気チューブ挿入術）を施行された方。

利用させていただきたい試料・情報について

（他機関に提供する場合、提供先機関の名称及び当該機関の研究責任者氏名含む）

当院のカルテに記録されている情報のうち、チューブの残存期間、再癒着の有無、鼓室形成術への移行の有無、手術前後の聴力、耳管機能、CT 所見、合併症の有無などについて、標記研究のために利用します。具体的には、本手術による術後成績を検討し、その有用性について明らかにしたいと思います。

なお、利用に当たっては氏名、住所、電話番号、患者番号等個人を特定できる情報を削除し、本研究のための固有の番号を付して仮名化のうえで行います。

研究成果については、学会発表や論文投稿等の方法で公表されますが、その内容から対象者個人が特定される事はありません。研究から得られた個別の結果については原則としてお答えしませんが、希望される方は下記連絡先までご連絡ください。

本研究課題について、より詳細な内容をお知りになりたい場合や、試料・情報の利用に同意いただけない患者さん／その代理人の方は、以下の連絡先までご連絡ください。

研究への利用に同意いただけない場合、当該患者さんの試料・情報については対象から除外します。ただし、連絡いただいた時点で既に研究成果公表済の場合は、該当者のデータのみを削除する等の対応は出来かねますので、ご了承ください。

本件連絡先

耳鼻咽喉科頭頸部外科 後藤 真一

電話 0172-39-5099